

第2章 ● 中近東地域



中近東



Middle East

援助の柱 中東和平を中心に、各国の実情に応じた協力を展開

JICAは、中近東地域に見られる開発ニーズの高い分野、具体的には、水資源管理、環境保全、産業振興などの分野に対する協力を積極的に取り組んでいます。同時に、この地域の国々が、政治的、経済的、社会的にも多様であることから、各国の実情に応じた協力も展開しています。

最大の課題である中東和平プロセス支援としては、当事国であるパレスチナに対して、職業訓練や政府行政機能の強化などの分野での研修員受入を中心とした

技術協力を積極的に行うとともに、周辺国であるエジプト、ジョルダンなどに対しても支援を行っています。

サウディ・アラビアなどの産油国に対しては、石油依存のモノカルチャー型経済から脱却をはかる経済多角化努力を支援し、特に自国の技術人材育成のための協力を行っています。

チュニジア、トルコなどの比較所得水準の高い国に対しては、人材育成などを重点とした技術協力を行っています。

エジプト、ジョルダン、シリア、イエメンなどの比較所得水準の低い国に対しては、技術協力とともに無償資金協力を実施し、産業基盤の整備・拡充や、保健医療分野などベーシック・ヒューマン・ニーズ (BHN) の充足に関する協力を行っています。

なお、イラク、リビアおよびスーダンに対する協力は、一部の人道的、緊急的なものを除き、実施していません。

開発の現況

多様な政治・経済の背景

中近東地域は、東はアフガニスタンから西はモロッコ、南はスーダンから北はトルコに至る、広範で多様な22カ国で構成されています。

気候は、高湿度の紅海およびアラビア湾沿岸、地中海性気候の北アフリカ、高山性気候のアラビア半島南部などを除き、大半は乾燥または半乾燥気候です。政治体制は、王制、首長制、共和制、政教一致のイスラム共和制などさまざまです。

経済的には、石油、天然ガスに恵まれた湾岸諸国や北アフリカ諸国が存在する一方で、天然資源の乏しさや経済開発の遅れなどにより、LLDC*（後発開発途上国）に属するイエメン、スーダンなども存在しています。



トルコ「感染症対策」による血清疫学調査

開発の現況もまたさまざま

中近東地域には、紀元前までさかのぼるような歴史の豊かな国も多く存在し、その社会的、文化的な背景はさまざまです。

また、近年では、第2次世界大戦後4度にわたるイスラエル・アラブ諸国間の中東戦争、レバノン内戦、アフガニスタン内戦、イラン・イラク戦争、湾岸危機、米軍によるアフガニスタン攻撃など多くの紛争がこの地域において発生しています。このように、中近東地域は非常に多様な地域であり、その開発の現況も多様です。

たとえば、湾岸諸国の中には、石油開発の推進による巨額の石油収入を財源に、経済・社会開発投資を行った結果、インフラ*整備などの面においては相当の水準に達しましたが、人口が小さいこともあり、特に技術分野などにおいて経済を支える自国民の人材の層がまだまだ薄く、国造りを支える人材の育成が急務となっている国があります。

その一方で、経済的に困難な状況にあり、基礎的な保健医療や安全な飲料水供給などの基礎生活分野においても、サービス提供が十分にいきわたらない国もあります。



ジョルダン「家族計画・WID」プロジェクトの養蚕によるエンパワメント*

重点課題と取り組み

中東和平への支援

2000年9月、イスラエルのシャロン・リクード党首がエルサレム旧市街の神殿の丘を訪問したことを契機として、イスラエル・パレスチナ間に衝突が発生し、2001年3月のシャロン政権発足以降も、パレスチナ過激派による自爆テロとイスラエルの軍事侵攻という暴力の悪循環はいっそう激しくなっています。

1993年のオスロ合意後、日本は、和平プロセスを支援するために、1992年の中東和平多国間協議において設置された「環境」「経済開発」「水資源」「軍備管理」「難民」の5つの作業部会のうち環境部会の議長役を務めるなど、多国間協議に積極的

に参画してきたほか、国際機関を通じた支援、JICAを通じた直接支援などにより、積極的な貢献を行ってきました。

JICAも、環境部会への支援の一環として、1999年にはパレスチナ、エジプト、イスラエルおよびヨルダンを対象とした「環境法の整備にかかる研修」を、第三国研修*の枠組みを活用してヨルダンで実施しました。

また、JICAは、従来から国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）を通じた職業訓練分野の技術協力を行っています。

さらに、パレスチナの人造りへの協力として、1997年以降、引き続き職業訓練や政府行政機能の

Front Line アトラス地域洪水予警報システム

モロッコ

砂漠の国での洪水対策

開発調査

◆モロッコでも時には豪雨が

砂漠の国モロッコにも雨は降ります。空がにわかにかき曇り、まっ黒な雨雲が現れ、土砂降りの雨が砂漠を洗い流したかと思えば、突然、雲の切れ間から太陽が顔をのぞかせ、空にすばらしい虹が出るといった乾燥地帯に特有の豪雨が降ります。

近年、地球温暖化の影響が小雨傾向の続くモロッコでは、雨は神の恵みとして人々に歓迎されています。しかし、特に急峻な山々が連なるアトラスやリフの山岳地帯では、雨が鉄砲水や土石流となって人々を襲うことがしばしばあり、地元の人々に昔から恐れられています。このためモロッコでは、人々は小高い台地や丘の上に住み、水の流れる低地まで畑仕事や水汲みに降りていくのが一般的で、低地に住むのを好みません。

◆難航した雨量計などの設置

JICAは、マラケシュ南部のウーリカ谷を中心とする地域で「洪水予警報システム」への協力を行っています。これは、最新のIT技術を使って、雨量や川面の水面変化を自動的に計測、データを無線で収集し、今回独自に開発したコンピューターソフトでシミュレーションし、災害の危険性を迅速かつ正確に予測し、地元住民や観光客の避難誘導に役立てようというものです。

2001年の秋に行われた自動計測装置などの機材の設置作業は難航を極めました。急峻な山肌の道なき道に沿って機材を運ぶには、ロバと人力に頼るほかありません。冬が近づきつつあるなか、雪が降っては作業を中断せざるをえず、時間との戦いにも迫られました。時にはヘリコプターを飛ばしての難作業でしたが、無事機材の据え付け



洪水予警報システムによる避難訓練の評価会

を終え、2001年12月には、地元の名士などが出席してのお披露目が行われました。モロッコのテレビでも大きく取り上げられ、人々の関心を集めています。

機材の設置は避難誘導体制づくりへの第一歩です。観測所と地元警察、自治体、住民、観光業者などとの連携と協力がこれからの課題です。

(モロッコ事務所)

強化といった分野での二国間ベースでの研修員受入を積極的に行っているほか、周辺国のヨルダンやシリアで、医療機材保守、農業用水利用などに関し、中堅技術者の養成を目的としたパレスチナ人対象の現地研修を実施しています。

日・サ協力アジェンダへの対応

日本とサウディ・アラビアの間では、両国の関係をいっそう拡大するために、政治および経済に加えて、新たな分野におけるパートナーシップを実現するべく、教育・人造り、環境、医療・科学技術、文化・スポーツおよび投資・合併の5分野での協力の拡充について、「日本・サウディ・アラビア協力アジェンダ」として推進していくことが、1998年10月に合意されました。

JICAも、このうち特に「教育・人造り」「環境」「医療・科学技術」分野の協力を力を入れています。具体的には、教育分野では電子技術教育開発センターの教員養成や技術短期大学レベルで技術者養成、自動車整備士の養成に対する技術協力など、人材養成に協力しています。

環境分野では、「北部紅海沿岸生物環境調査」や「アラビア湾環境モニタリング計画」などの開発調査、「ビャクシン森林保全のための生態系と生物多様性」にかかわる研究協力を実施しています。

さらに、2000年1月には、これまでの協力に加え、「文明対話の促進」「水資源分野への協力」「幅の広い政策対話の促進」を表明し、リヤド市上水道整備や南西部水資源開発調査を進めるとともに、考古学分野の協力を開始しようとしています。

IT分野の協力

2001年度からは、ヨルダンにおいてデジタル教材開発や、情報格差（デジタル・デバイド*）解消のための村落レベルの協力など、情報通信技術



サウディ・アラビア「北部紅海沿岸生物環境調査」

(IT)分野における協力を展開しています。

水資源分野の協力

自然条件と近年の経済発展・人口増加により、水資源の確保は大きな課題となっています。これに対し、水資源管理計画策定や上下水道施設改善、水道技術指導などを実施し、各国の水問題への取り組みを支援しています。

南南協力支援

中近東諸国のなかには、援助を受け取るだけでなく、自らの開発経験を生かしてほかの開発途上国に協力する、いわゆる南南協力*に取り組んでいる国があり、JICAも、第三国研修などを通じて、このような取り組みを積極的に支援しています。具体的には、エジプト、ヨルダン、シリア、トルコ、モロッコ、チュニジアなどで、アフリカ諸国やパレスチナを含む中近東諸国、中央アジア諸国向けに、第三国研修を20件以上実施しています。

アフガニスタン復興支援

アフガニスタンでは、2001年12月に暫定政権が発足し、国際社会による復興支援が始まりました。

2002年1月に東京で開催されたアフガニスタン復興支援国際会議で、日本は、「和平プロセス・国民和解のための支援」と「アフガニスタンの将来をになう人造りに対する支援」を打ち出しました。

JICAは、メディア・インフラ、教育、保健医療、女性の地位向上を重点分野として協力を進めるとともに、本格的な復興・開発支援を進めるために、カブールにJICAの駐在員を配置するなど、実施体制整備を進めています。



アフガニスタン復興支援国際会議

Front Line 山地ビャクシン森林保全

サウディ・アラビア 貴重な森林資源を守れ

研究協力

◆森林に異変が

サウディ・アラビアの南西部には、紅海に沿って標高2000～3000m級の山々が連なるアシル山地があります。ここに隣接するアブハという町は、標高が高く涼しいため、気温が50度近くになる真夏には、国中から大勢の人々が避暑に訪れます。

この山地の西斜面は、紅海からの湿った風を受けて豊かな森林を形成しています。国土の98%が乾燥地帯に属し、緑の少ないこの国にとって、これらの森林は貴重な自然資源であると同時に、避暑に訪れる人々の憩いの場となっています。

その森の中心となるのが「ビャクシン」と呼ばれるヒノキ科の樹木です。このビャクシンに、1991年の湾岸戦争後は、先枯れ（枝先が枯れる現象）や立ち枯れ（全体に枯れてしまう現象）が目立つようになってきました。これは、戦争の影響もあるのではないかと推測もされていましたが、サウデ

ィ・アラビア政府は、その原因の調査をJICAに要請してきました。

◆さまざまな分野の専門家を派遣

JICAは、1999年から3年間にわたり、気象学、植物学、植生学、植物生理学、水理学、生物地理学、微生物学、小動物学、保護区管理計画といった幅広い分野の長期・短期の専門家を派遣し、ビャクシンが枯れる原因を究明する研究協力を行ってきました。こうした研究の成果にもとづき、2002年度は、関係する国内の研修者や政府関係者を集めたワークショップを開催して、意見交換を行い、ビャクシン林の保護管理計画にまとめていく予定となっています。

今回の協力先である野生生物保護委員会（NCWCD）は、サウディ・アラビア国内の自然保護を目的に1986



「山地ビャクシン森林保全」の現地活動

年に設立され、国内の動物の保護・育成、保護区の指定・管理、環境教育を行っています。

JICAは以前にもNCWCDとサンゴ礁や海洋生物の宝庫である紅海に生息する生物のデータベース作成や保護区策定、環境教育の教材作成に関する協力を行いました。

（サウディ・アラビア事務所）